

日本銀行
帯広事務所長

田原謙一郎



十勝は、学ぶこと、人を育てることに熱心な土地柄だと思ふ。自分自身の成長を含めた「人づくり」への熱意を感じる。

まずは、社会人の学び合い。自社の仕事を終えた経営者が勉強会に集まる。講師の話聞いて終わりではなく、取りまとも役の号令で活発に意見が交わされる。農業関係者も仕事の合間

を縫って勉強に余念がない。テーマは近未来の技術から観光など他業種の動向まで、そのアンテナの高さに目を見張る。企業の出先機関には、面倒見の良い事務局が有意義な交流を促してくれる。転勤者は、地元経営者や十勝勤務の先輩から、自分一人では知りえなかった十勝の魅力

をじっくり進める印象だ。農家は、親御さんがまだ現役バリバリながら、脂の乗ってきたお子さんに経営を譲った（あるいはもうすぐ譲る）という話を伺う。同じフィールドで一緒にプレーを続けるが、キャプテンマークは若きリーダーに託すように見えた。一方では、農業の担い手

学びの大地

力を学べる。

後継者の育成は時間をかけて

となる人材の裾野を広げる取り組みも見られる。

企業の跡継ぎと目される人たち

ちが海外で学ぶとか、家業と一見異なる仕事をしてきたケースにお目に掛かると、ご本人の意思もさることながら、広い視野や経験を持たせようという親心を感じる。各団体の若手組織の活動を通して、さまざまなきつ

きを得る若手経営者もいるだろう。

起業を志す人にとっては、事業会社・金融・行政等が連携した起業支援の仕組みが幾つか構えられ、心強い。他所で育ち、大人になって十勝で会社経営を始めた人が、今度は十勝で先輩にアドバイスする姿にも接する。

出の状況を正しく把握し、借入や資産運用を賢く行っていく必要がある。ますます巧妙になる詐欺的商法からも身を守らねばならない。こうしたお金の知識や判断力（金融リテラシー）を身に付けていただくのにお役に立つことも、日本銀行帯広事務所の仕事の一つである。

大人の学びに止まらない。地域ぐるみで大人が子どもを育てる環境づくりも進んでいる。小中学生に対し郷土愛を育む学習プログラムでは、筆者も中学生向けの出前授業でお手伝いさせていただいた。授業後のアンケートでは、大半の生徒から、お金や金融に関する勉強について「大切であり、社会に出る前に学校で勉強しておくべきものだと思う」との感想をもらった。

私たちは、親元を離れての生活、就職、子育て、老後など一人の向上にも取り組んでいきたい。

かちまい 論壇